

臨床心理学専攻 講義概要

授業科目の名称	単位数	講義等の内容
保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	1. 精神医療分野における多職種連携の一翼を担う心理専門職として活動するのに必要な知識体系として、①精神障害およびその治療②精神保健行政に関する知識③市中での精神医療の実際について学習する。2. 同様に精神医療以外の医療分野について①心理教育が必要な慢性疾患の詳細およびその治療②緩和医療の概念の学習を含むチーム医療の方略と実際③精神疾患に該当しない依存への対処④精神疾患に該当しない自己制御機構（食欲睡眠など）破綻への対処⑤初歩的な遺伝カウンセリングについて学習する。
福祉分野に関する理論と支援の展開	2	本講義では、福祉領域で心理臨床実践を行うにあたって必要な知識を習得し、専門職として現場での実践を行う際に必要な視点や支援技法を体得することを目的とする。具体的には、①福祉分野に関わる法制度、②発達障害の理解と心理的援助をはじめとした、障害児および障害者に対する心理臨床実践、③老年期の心理的問題への対応や認知症の理解と支援といった、高齢者に対する心理臨床実践、④虐待問題への対応、介護者支援、子育て支援等の家庭に関する問題に対する心理的支援、について扱う。
教育分野に関する理論と支援の展開	2	本講義では、教育分野における心理的支援を実践するにあたり求められる知識や技術を習得することを目的とする。また学校という組織の特徴を理解するとともに、その中で行う心理支援の実際についても教授する。具体的には、①「教育分野の基礎」として教育相談、発達障害と特別支援教育、チーム学校、学校における倫理的配慮等を、②「学校での実践」として教育分野における公認心理師の役割と主な業務、不登校およびいじめ問題の理解と支援、スクールカウンセラーの活動の実際、コンサルテーションとコーディネーション等を取り上げる。
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	司法・犯罪分野を以下の3点に分け、理論・制度面および実践面について学ぶ。 1. 加害者臨床の理論・制度と実践：犯罪・非行のアセスメント、少年犯罪、矯正（施設内処遇）・更生（社会内処遇）、ドメスティック・バイオレンス 2. 被害者臨床の理論・制度と実践：犯罪被害者支援と被害者参加制度、犯罪被害者家族支援 3. 家事事件における理論・制度と実践：離婚と子どもへの支援。これらを学ぶことを通して、公認心理師が備えるべき知識や臨床実践における姿勢を身に付けることを目的とする。
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	1. 産業・労働分野における心理臨床の基礎的知識を、以下の項目を中心に学ぶ。①精神障害を含む労働災害とその認定基準 ②労使関係における使用者の責任や安全配慮義務 ③産業・労働に関わる法令や制度 ④職業性ストレス ⑤キャリア発達とキャリア開発。 2. 産業・労働分野における心理臨床の実践について、以下の項目を中心に学ぶ。①復職支援 ②ストレスチェック ③THP ④キャリアカウンセリング ⑤コーチング ⑥メンタルヘルス対策 ⑦産業・労働分野における連携。これらを通して産業・労働分野における公認心理師の役割を理解し、実践に活かすことを目指す。
心理的アセスメントに関する理論と実践	2	公認心理師における心理的アセスメントの意義と基本姿勢について学ぶ。1. 心理的アセスメントに関する理論と方法を学ぶ。①知能検査②神経心理学的検査③発達検査④パーソナリティ検査など。2. 心理的アセスメントからの情報をもとに、包括的に理解をし、心理に関する相談や助言及び指導の実践への応用について学ぶ。①テストバッテリーの組み方②アセスメントで得られた情報の包括的な理解③アセスメント情報と支援とを結びつけるケースフォーミュレーション④所見の書き方とフィードバックなど、実践に役立つ技術の習得を目指す。
心理支援に関する理論と実践	2	心理学的支援について、代表的な理論と実践の基礎を医療、教育、福祉、司法、産業の5領域について学ぶ。その際、①心理的支援を必要とする人への支援 ②心理的支援を必要とする人の家族への支援 ③地域支援 ④多職種連携についても学ぶ。また、心理的支援の対象は乳幼児から高齢者までを想定し、各発達段階に適した支援についても学ぶ。これらを通して、心理的支援を必要としている人、及び家族に必要な支援について理解し、実践のための基礎的な力を養うことを目指す。
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	1. 家族関係などの関係性に焦点をあてた支援のアプローチの諸理論とその支援の手法を学ぶ。（①多世代アプローチ②構造派③コミュニケーション学派④システミックアプローチなど）2. 家族のアセスメントの技術や家族の世代別の特徴（①乳・幼児期の家族②青年期の子供を持つ家族③中年期・老年期の家族）をいかした家族支援について学ぶ。3. 集団を対象とする支援についてそのアセスメントと支援について学ぶ。4. コンサルテーション、危機介入をはじめとするコミュニティアプローチについてのアセスメントと支援と実践について学ぶ。
心の健康教育に関する理論と実践	2	1. 心の健康教育に関する理論として、以下の項目を中心に学ぶ。①メンタルヘルスの予防と健康増進 ②ストレス対処。2. 心の健康教育に関する実践として、以下の項目を中心に学ぶ。①心理教育 ②セルフマネジメント ③ソーシャルスキルトレーニング ④問題解決法 ⑤依存症とその対応 ⑥自殺の予防と対応 ⑦ハラスメントの予防と対応 ⑧災害時の対応。これらを通して、一般市民や心の健康問題をもつ人などへの教育的支援の方法を学び、実践に活かすことを目指す。
心理実践実習Ⅰ	2	対人援助職として公認心理師に求められる態度や資質の向上を目的として、傾聴訓練、アサーション訓練、臨床記録や多職種連携に必要な書類等の記入・作成方法、ケースカンファレンスでの発表やディスカッションとその運営などを、実践的に学ぶ。これらから、公認心理師に求められる専門的スキルを身につけ、専門職としての態度を養成する。
心理実践実習Ⅱ	2	公認心理師が活躍する医療機関を中心とした臨床現場での実習を行う。各現場での公認心理師の役割をふまえて、そこで求められる対人コミュニケーションや心理学的支援、多職種連携の方法を実践的に学ぶ。また、心理臨床実践にかかる記録やその管理方法を実践する。これらから、公認心理師として活躍できるスキルを身につける。
心理実践実習Ⅲ	2	対人援助職として公認心理師に求められる態度や資質の向上を目的として、傾聴訓練、アサーション訓練、臨床記録や多職種連携に必要な書類等の記入・作成方法、ケースカンファレンスでの発表やディスカッションとその運営などを実践的に学ぶ。これらから、公認心理師に求められる専門的スキルを身につけ、専門職としての態度を養成する。

臨床心理学専攻 講義概要

授業科目の名称	単位数	講義等の内容
心理実践実習Ⅳ	4	公認心理師が活躍する医療機関を中心とした臨床現場での実習を行う。各現場での公認心理師の役割をふまえて、そこで求められる対人コミュニケーションや心理学的支援、多職種連携の方法を実践的に学ぶ。また、心理臨床実践にかかる記録やその管理方法を実践する。これらから、公認心理師として活躍できるスキルを身につける。
臨床心理学特別演習Ⅰ	2	国家資格である公認心理師資格を取得するためには、国家試験の合格が必須である。本科目では、臨床心理学専攻の目標である国家資格取得のため、公認心理師の活躍が期待される5領域に関する基礎的知識を演習形式で身につける。
臨床心理学特別演習Ⅱ	2	国家資格である公認心理師資格を取得するためには、国家試験の合格が必須である。本科目では、臨床心理学専攻の目標である国家資格取得のため、公認心理師の活躍が期待される5領域に関する基礎的知識を臨床活動で応用するための問題解決的思考を身につけ、国家試験での回答力を向上する。
ゼミナールⅠ	2	<p>以下の内容で特定の課題の研究の完成を目指した指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保健医療分野における社会的背景や心理的課題を医学、精神医学、緩和医療という異なるパラダイムの視点から検討し、文献輪読、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。 ②加齢に伴う脳内環境変化に関して理解を深める。学生個々の関心に応じて文献輪読やディスカッションを行い、問題点をブラッシュアップする。 ③精神科リハビリテーション分野における課題を取り上げ、最新の動向や社会的背景を検討する。学生の研究テーマに応じて、文献輪読やディスカッション、プレゼンテーションを行う。 ④心理的アセスメントにおける課題や理論を取り上げ、実践についての具体的な展望や問題点を考える。問題意識を持つための文献購読、ディスカッションを行う。 ⑤乳幼児期から青年期の人と家族への心理的支援について、学生の研究テーマに応じて、文献講読やディスカッション、プレゼンテーションを行う。 ⑥産業・労働分野における課題を取り上げ、その社会的背景や心理的課題を検討する。学生の研究テーマに応じて、文献輪読やディスカッション、プレゼンテーションを行う。 ⑦主に学校分野における心理臨床について、学生の興味、関心に応じて文献購読、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。
ゼミナールⅡ	2	<p>以下の内容で特定の課題の研究の完成を目指した指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保健医療分野における心理臨床学的支援方法につきエビデンスに基づいて現状及び支援方法のbrushupを検討する。 ②加齢に伴う脳内環境変化に関し、学生の個々の興味に応じて、問題点抽出や研究計画と実施方法を検討する。その内容のプレゼンテーションを行い研究テーマの方向付を行う。 ③精神科リハビリテーション分野における臨床学的課題を取り上げ、それへの心理臨床学的支援方法を検討する。 ④家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践の理解に繋がる、文献購読とディスカッションを行い実践、研究への考える力を身につける。 ⑤乳幼児期から青年期の人と家族への心理的支援について、学生の研究テーマに応じて、文献講読やディスカッション、プレゼンテーションを行う。 ⑥産業・労働分野における心理臨床学的課題を取り上げ、それへの心理臨床学的支援方法を検討し、その内容をプレゼンテーションや論文としてまとめる力を身につける。 ⑦主に学校分野における心理臨床について、各自の研究テーマについて明確にした上で、文献購読、ディスカッション、プレゼンテーションを行う。
特別演習	2	<p>以下の内容で特定の課題の指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①保健医療分野における現状の検討から課題を発見し、研究方法を学習して研究を行い、論文執筆や発表の方法を学習する。 ②加齢に伴う脳内環境変化に関して、学生の個々のテーマに沿い、研究内容および考察のプレゼンテーションを行う。これらを通じてプレゼンテーションや論文執筆の方法を学ぶ。 ③精神科リハビリテーション分野における研究課題の研究計画を立て、適切な研究方法を選び、研究テーマに沿った文献を調査・検討して、論旨を構成するために必要なデータを収集する。また、研究計画や研究内容の発表を行う。これらを通して論文執筆や発表の方法を学ぶ。 ④心理的アセスメント（対象は個人及び家族）の分野における研究テーマを選び、適切な手法と研究テーマに沿った文献レビューを行う。研究計画をたて、データ収集をし研究成果をまとめると共に発表を行う。これらに必要な技術と方法を学ぶ。 ⑤乳幼児期から青年期の人と家族への心理支援をテーマに研究課題の適切な研究方法を選び、研究テーマに沿った文献を調査・検討して、論旨を構成するために必要なデータを収集する。また、研究計画や研究内容の発表を行う。これらを通して論文執筆や発表の方法を学ぶ。 ⑥産業・労働分野における研究課題の研究計画を立て、適切な研究方法を選び、研究テーマに沿った文献を調査・検討して、論旨を構成するために必要なデータを収集する。また、研究計画や研究内容の発表を行う。これらを通して論文執筆や発表の方法を学ぶ。 ⑦主に学校分野における研究課題について、各自の研究テーマに関する先行研究を検討し、研究計画を立て、適切な研究方法を選び、研究を実施する。研究結果や考察等について発表するとともに、それらをまとめて文章化していくプロセスを学ぶ。

臨床心理学専攻 講義概要

授業科目の名称	単位数	講義等の内容
専門横断科目	2	大学院で学ぶ目的は、専門性を深めることのみならず、視野を広め、地域や施設における課題への解決能力を醸成することである。そのためには、専門分野とは異なっても保健・医療・福祉分野における今日的課題や厚生行政の課題について日常から関心を持ち、様々な視点で自ら考えられる力をもつ必要がある。本講義では、そうした様々な専門分野の課題について検討する。
研究倫理	2	研究を適切に遂行するためには、研究倫理に関する知識を正しく持ち合わせている必要がある。e ラーニングによる研究者行動規範教育を提供している APRIN CITI Japan プログラムの医学研究者標準コースを利用して研究倫理を習得する)。さらに、各分野の研究倫理について具体的な問題を取り上げて議論し理解を深める。 ガイダンスの総則